

苫小牧市総合戦略推進会議

令和2年度 第1回会議資料

日時 令和2年11月19日(木) 14時から

場所 市庁舎9階 議会大会議室

目次

- 1 人口ビジョン及び総合戦略について . . . P 1 ~ P 4
- 2 第1期総合戦略について P 5 ~ P 7
- 3 第2期総合戦略について P 8 ~ P 17
- 4 令和2年度 of 取組状況について P 18

1 人口ビジョン及び総合戦略について

1. 策定の背景

【国が提言する課題と目標】

課題

- ・2008年に始まった人口減少は、今後加速度的に進む。
- ・人口減少による消費・経済力の低下は、日本の経済社会に対して大きな重荷となる。

目標

- ・人口減少に歯止めをかけ、2060年に1億人程度の人口を確保する。
- ・将来に渡って活力ある日本社会を維持する。

【目標達成に向け、施策を総合的かつ計画的に実施するために】

国

長期ビジョン：2060年に1億人程度の人口を確保する中長期展望
総合戦略：第1期(2015～2019年度)、第2期(2020～2024年度)の政策目標・施策

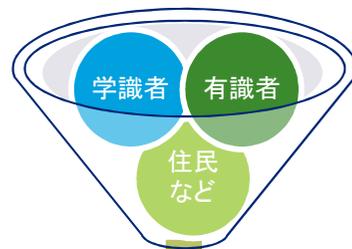
※「まち・ひと・しごと創生法」に基づき地方自治体に、「人口ビジョン」及び「総合戦略」の策定を要請

地方

地方人口ビジョン：自治体の人口動向・将来人口推計の分析や中長期の将来展望
地方版総合戦略：第1期(2015～2019年度)、第2期(2020～2019年度)の各自治体の政策目標・施策

【本市の策定・推進体制】

産学官金などの有識者、性別、年齢など幅広い市民の協力・参画を得るために総合戦略推進会議を設置

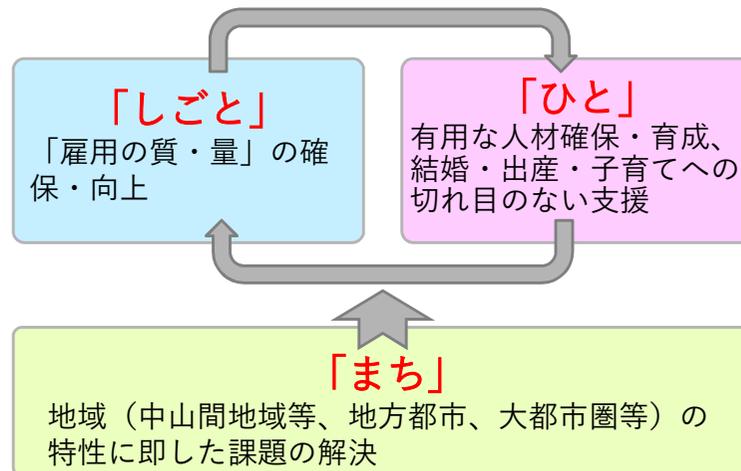


苫小牧市

連携

苫小牧市総合戦略推進会議

「しごと」と「ひと」の好循環
それを支える「まち」の活性化



1 人口ビジョン及び総合戦略について

2. 本市の現状

【加速する人口減少の現状】

年次	世帯数	人口				自然動態			社会動態		
		総人口	増減数	老年人口 (65歳以上)	高齢化率	出生	死亡	増減数	転入	転出	増減数
平成27年 (2015年)	86 877	173 794	△ 270	44 462	25.58%	1 447	1 746	△ 299	6 317	6 292	25
平成28年 (2016年)	87 334	173 135	△ 659	46 009	26.57%	1 359	1 672	△ 313	5 806	6 128	△ 322
平成29年 (2017年)	87 716	172 373	△ 762	47 410	27.50%	1 255	1 816	△ 561	5 792	6 000	△ 208
平成30年 (2018年)	88 545	171 811	△ 562	48 603	28.29%	1 243	1 859	△ 616	6 122	6 070	52
令和元年 (2019年)	89 460	171 242	△ 569	49 365	28.83%	1 146	1 927	△ 781	6 166	5 978	188

※人口は各年12月末現在。(外国人住民を含む。)

【出生についての市民意識】 ※市民アンケートの結果より抜粋

理想の子どもの数	2人 3人	55.3% 32.5%
子どもの数が理想に比べて、少ない理由	お金がかかりすぎる 心理的・肉体的負担が大き 手助けする人がいない	62.8% 20.4% 17.7%
子どもの数が増えると 思う施策・対策	経済的負担の軽減 安定した雇用の確保 職場環境の整備	56.8% 42.4% 37.0%



出生数が年々減少しており、令和元年度は、前年と比較し約100人減少している。

多くの方が、2～3人の子どもを欲しいと思っているものの、経済的に不安を抱え踏み出せていない傾向がある。

現状の社会情勢においては、出生数が今後も減少していくことが予想されるため、子どもを欲しい人が、子育てしやすい環境の整備が重要となっている。

2 出産・子育て、雇用対策に結びつく施策をオール苦小牧で展開することが必要

1 人口ビジョン及び総合戦略について

3. 課題と方向性

①就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。

主な転出先は、札幌市や首都圏である。

⇒市内における雇用環境の維持・向上、住みやすさの改善により、若年層の転出を抑制する。



基本目標 1

地元企業と学生との“つながり”を強化し、
地元雇用の確保・拡大を実現

②現在の合計特殊出生率を維持しても人口は増えない。

若い女性人口は減少傾向にある。

出生数が増えない主な理由は、子育ての経済的負担である。

⇒子育て・教育のしやすい環境を整備し、子育ての経済的負担感を減らすことで、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、合計特殊出生率を向上させる。



基本目標 2

子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備

③活気がない、交通利便性が悪い、PRするものがないといった声上がり、地域コミュニティの活性化や生活利便性の向上といった生活環境の改善が課題である。

⇒生活環境を改善し、苫小牧市で暮らすメリットをPRすることで、交流人口やUIターンを増加させる。



基本目標 3

地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

④今までの人口の維持は、製造業などの企業誘致の影響が大きく、人口減少局面をむかえる中で、さらなる競争力向上が必要である。

⇒国際的な競争力を持つ市として、企業誘致などの活動を充実し、民間投資を呼び込む。



基本目標 4

産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

1 人口ビジョン及び総合戦略について

4. 人口ビジョンにおける将来展望

【①合計特殊出生率の目標】

平成28年（2016年）に閣議決定した「ニッポン一億総活躍プラン」において「希望出生率1.8」が掲げられた。北海道人口ビジョンにおいても令和12年（2030年）又は令和22年（2040年）に合計特殊出生率が1.8になると仮定して人口を推計。このことを踏まえ、本市の合計特殊出生率の目標値を1.8とする。

合計特殊出生率（自然動態）

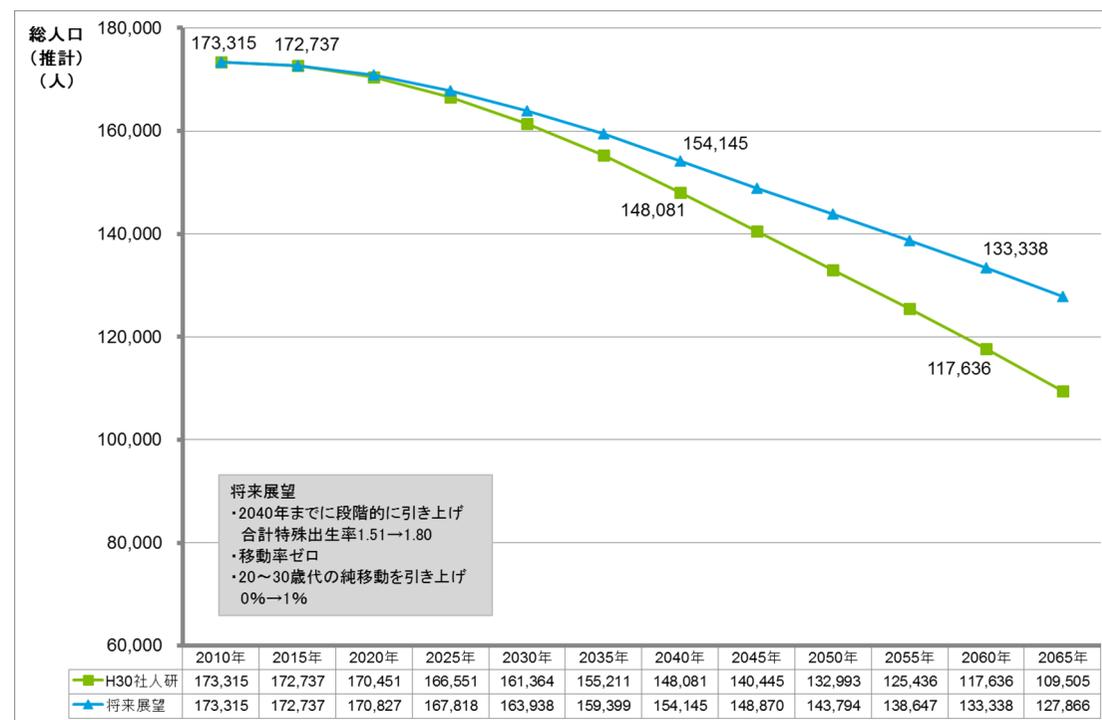
2040年までに段階的に引き上げ
（合計特殊出生率 1.51⇒1.80）

【②純移動の目標値】

転出が多い20歳代と、今後の子育て世代となる可能性の高い30歳代において、平成22年（2010年）～平成27年（2015年）までの人口の純移動率が、-0.02%とほぼ均衡していることから、本市の純移動率の目標値を第1期と同様に20歳代～30歳代で1%とし、その他の年代でゼロとする。

純移動率（社会動態）

移動率ゼロ（転入転出が均衡）
+
20~30歳代の純移動を引き上げ（0%⇒1%）



国が現状の人口動態を基に作成した見込み

総合戦略で掲げた各施策を進め①と②を実現した場合

現在	社人研の推計値		将来展望の推計値	
2020年	2040年	2060年	2040年	2060年
170,370人	148,081人	117,636人	154,145人	133,338人

※令和2年9月30日現在

現在の人口170,370人 ⇒ 令和22年（2040年）15万人を維持
令和42年（2060年）13万人を維持

2 第1期総合戦略について

1. 第1期総合戦略の結果

【実施結果】

策定時期：平成28年2月 実施期間：平成27年度(2015年度)～令和元年度(2019年度)

基本目標 1 地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用拡大を実現

基本目標における数値目標

項目	H26基準	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	H31目標	達成状況
新規雇用創出数（人）【累計】	—	143	234	259	282	300	94%
管内学生の管内事業所就職割合（%）	53.49	50.08	45.84	45.53	44.27	60	74%

- 具体的な施策
- ①若者在住若者の雇用機会の拡大
 - ②学生と地元企業との「縁」づくり促進
 - ③創業促進

各施策の重要業績評価指標（KPI）

施策数	指標総数	達成状況
3 施策	9項目	平均99%

※各評価指標の達成状況は、120%を上限とし、超えた指標は120%で計上。

基本目標 2 子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備

基本目標における数値目標

項目	H26基準	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	H31目標	達成状況
合計特殊出生率	1.51	—	—	15.6	—	1.60	98%
子育て環境や支援の満足度(5段階評価)	2.80	—	—	2.9	—	3.30	88%
子育て世代の女性の労働力率（%）	62.2	60.6	—	—	—	66.7	91%

- 具体的な施策
- ①仕事と子育ての両立支援
 - ②出産・子育てしやすさを実感できる支援
 - ③苦小牧らしい教育プログラム形成支援

各施策の重要業績評価指標（KPI）

施策数	指標総数	達成状況
3 施策	6項目	平均76%

2 第1期総合戦略について

基本目標 3 地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

基本目標における数値目標

項目	H26基準	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	H31目標	達成状況
転入者数(人)	5,958	5,806	5,792	6,122	6,166	6,500	95%
観光入込客数(万人)	186	193	199	199.5	222.5	218	102%
「苫小牧は住みやすい」と回答した人の割合(%)	23.3	—	—	—	33.1	30.3	110%

- 具体的な施策
- ① 苫小牧出身者のネットワーク化支援
 - ② 交流人口・定住人口の拡大支援
 - ③ 苫小牧らしい教育プログラム形成支援

各施策の重要業績評価指標 (KPI)

施策数	指標総数	達成状況
5 施策	10項目	平均90%

基本目標 4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

基本目標における数値目標

項目	H26基準	H28実績	H29実績	H30実績	R1実績	H31目標	達成状況
新規企業進出件数(件)【累計】	—	13	15	16	17	20	85%
広域連携による共同事業の新規実施件数(件)【累計】	—	1	1	1	2	10	20%

- 具体的な施策
- ① 進出企業へのサポート機能の強化
 - ② 多様な産業集積（高度化）の推進
 - ③ 地域間連携の促進

各施策の重要業績評価指標 (KPI)

施策数	指標総数	達成状況
3 施策	9項目	平均101%

2 第1期総合戦略について

2. 第1期総合戦略の検証

【数値目標と評価指標（全体）】

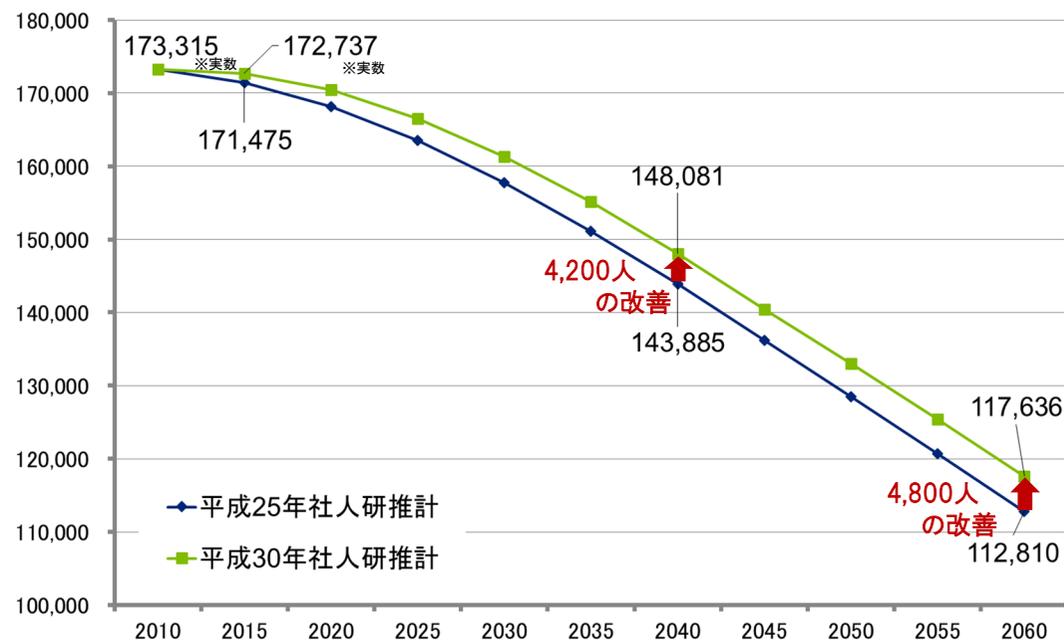
基本目標における数値目標の達成状況 : **86%** (10項目)

重要業績評価指標 (KPI) 及び実績の達成状況 : **93%** (34項目) ※策定当初に掲げた施策のうち実施しなかったものが2件あり、評価指標に反映していない。

【道内他市との比較】

	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)
旭川市	346,507	344,500	342,848	340,211	337,392	334,070
	前年比	▲ 2,007 (-0.58%)	▲ 1,652 (-0.48%)	▲ 2,637 (-0.77%)	▲ 2,819 (-0.83%)	▲ 3,322 (-0.98%)
函館市	270,674	267,751	265,503	262,519	258,948	255,308
	前年比	▲ 2,923 (-1.08%)	▲ 2,248 (-0.84%)	▲ 2,984 (-1.12%)	▲ 3,571 (-1.36%)	▲ 3,640 (-1.41%)
釧路市	177,921	176,039	174,518	172,391	170,364	168,086
	前年比	▲ 1,882 (-1.06%)	▲ 1,521 (-0.86%)	▲ 2,127 (-1.22%)	▲ 2,027 (-1.18%)	▲ 2,278 (-1.34%)
苫小牧市	173,632	173,317	173,135	172,373	171,811	171,242
	前年比	▲ 315 (-0.18%)	▲ 182 (-0.11%)	▲ 762 (-0.44%)	▲ 562 (-0.33%)	▲ 569 (-0.33%)
帯広市	168,255	167,994	168,096	167,653	166,889	166,043
	前年比	▲ 261 (-0.16%)	102 (0.06%)	▲ 443 (-0.26%)	▲ 764 (-0.46%)	▲ 846 (-0.51%)

【国の人口推計の変化 (H25版→H30版)】



【分析】

- ・数値目標・評価指標は、ともに9割程度の達成状況であった。
- ・道内の他都市と比較すると、本市の人口の減少幅は小さい。
- ・平成30年(2018年)の国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成25年(2013年)社人研の推計よりも人口の減少幅が改善している。
- ・自然動態は、出生数の減少と死亡数の増加が進んでおり、自然減の状態が加速している。
- ・社会動態は、周辺の自治体から転入が多い一方で、若年層の進学や就職による都市部への流出に歯止めが掛かっていない。

◆将来的な人口減少は依然として深刻な状況。

◆第2期においても、長期的な視点にたち、粘り強く人口減少対策を進める必要がある。

3 第2期総合戦略について

1. 計画策定の背景

- 【国の動き】** ・第1期の枠組を基本的に維持しつつ、令和元年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。
- 【市の動き】** ・これまでの取組（第1期）を基に長期的な視点に立ち、人口減少対策、地方創生の取組を切れ目なく進める。
・最新の人口統計や市民アンケートの結果等も踏まえた人口ビジョン（人口将来展望）を策定。
・新たな視点を加え、経済・社会情勢の変化に対応できる新たな戦略を策定。

2. 総合戦略の推進により目指す本市の姿

健康で安全な都市環境のもと、世代や性別に関わらず、豊かで明るく誰もが住みやすい「とまこまい」

3. 基本目標

- 1 地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現
- 2 子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備
- 3 地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進
- 4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上



4. 施策の体系

4つの基本目標を実現するために18の「施策」を展開

- ◆ 第1期総合戦略の事業で継続すべき事業
- ◆ 新たに取組を検討している事業
- ◆ 中長期的な視点により検討していくべき事業

5. SDGsの視点による地方創生

各施策がSDGsのどの目標に結びついているのか、見える化を図り、行政の個々の取組が日本はもとより世界が進める持続可能なまちづくりにつながっているのかを共有。



6. 多様性に富んだ社会、安全・安心な地域づくりで地方創生を推進

活気あふれる地域をつくるためには、誰もが居場所と役割を持ち、個人として尊重され、その個性と能力を発揮し、活躍できる地域社会を実現することが地方創生を推進する重要なポイント。

北海道で初めて宣言した「苫小牧市男女平等参画都市宣言」に掲げた理念を念頭に、各種事業を推進。

基本目標と 施策の基本的方向

市内の高校・大学等に通う学生が地元企業を知り、興味を持つ機会を設け、企業の認知度を高めます。また、若者をはじめ、働きたい人が働くことができ、地元企業の雇用を確保・拡大できるよう支援するとともに、市内創業者（起業家）の創出・育成を図ります。さらには、Society5.0の実現に向けた未来技術の活用を促進します。

施策の基本的方向 1-1 若者の雇用機会の確保・拡大

施策① 若者の市内就職の促進

- UIJターン希望者等の市内就職に向け、都市部で合同就職説明会を開催し、市内企業の人材確保を支援。
- 企業で行う職場体験や実務研修などの実施により、若者の市内就職を促進。
- 地域の中小企業等の人材確保及び東京圏から本市へのUIJターンによる就業・起業の促進を図り、活気ある地域づくり・地域経済を維持。



展開する事業

- ・ 合同就職説明会事業 ・ 若者人材育成事業
- ・ 若者地元定着促進事業
- ・ 苫小牧UIJターン新規就業支援事業
- ・ 介護人材確保支援事業
- ・ 介護職員育成支援事業

施策の基本的方向 1-2 学生と地元企業との“縁づくり”促進

施策② 学生と地元企業との交流・連携機会の創出

- 無料就職マッチングサイトにより、市内外の学生をはじめ、求職者に市内企業の魅力や求人情報を広く周知。
- 高校生等を対象とした職場見学とセミナーを組み合わせたバスツアーを開催。学生と地元企業が出会う機会を設け、企業活動や仕事に対する理解を深める。
- 地元企業と連携して小学生を対象とした疑似的な就労体験イベントを実施。



展開する事業

- ・ 就職マッチング支援事業
- ・ 就業チャレンジ支援事業
- ・ キッズタウン開催事業
- ・ 関係機関と連携した各種取組の展開

施策の基本的方向 1-3 創業支援

施策③ 苫小牧における創業支援

- 苫小牧市内での創業希望者に対して、創業前後に必要な支援を行うほか、本市からスタートアップ企業やベンチャー企業が新規創業するための土壌づくりを行う。
- 関係する機関（商工会議所、金融機関等）と連携し、創業希望者に対して支援を行う。
- 女性のエンパワーメントや潜在層の起業支援、起業後の交流の場を設けるなど、女性活躍に向けた取組を促進。



展開する事業

- ・ 創業サポート事業
- ・ 創業等相談窓口の機能強化
- ・ 女性活躍促進事業

施策の基本的方向 1-4 Society5.0実現の推進

施策④ Society5.0の実現に向けた技術活用の支援

- 労働人口の減少が進む中で、市内企業が抱える課題・ニーズへの解決や新規事業を創出するため、先進的な技術やサービスを導入する企業に対して支援。
- 市の取組として、定型業務へのRPA導入、問い合わせ業務のAI化などにより業務効率化を図り、時代のニーズに応じた高い行政サービスの実現を目指す。
- 安全・安心なまちづくりのさらなる取組として、消防活動のICT化（ロボット導入）を検討。



展開する事業

- ・ 苫小牧イノベーション活性化事業
- ・ 行政サービスのICT化
- ・ 消防活動のICT化



基本目標と 施策の基本的方向

現代の子育て家庭は夫婦ともに家計を支える働き手として、また地域経済を支える人材として役割を担っており、多様化する世帯構成に対応した子育て支援を実施する必要があります。子育ての負担を軽くする社会の実現を目指し、男女平等参画都市を宣言している苫小牧らしく、世代や性別を超えた子育て支援を推進します。

また、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働きやすい環境を整備し、企業の人材確保に向けた「やめない」、「人が集まる」の好循環を作り出します。

さらには、社会の変化に対応する体験学習の機会、地域資源をいかした体験プログラムの充実により、子育てにとって良質な環境を提供します。

施策の基本的方向 2-1 仕事と子育ての両立支援

施策⑤ ワーキングマザー＆ファザーの子育て応援

- 子育て中の母親・父親向けに講座の実施や出産・育児と両立に向けた支援を行うことで、出産・子育てを理由とした離職を減らす。
- 子育ての物理的・経済的な負担を軽くすることで、「子どもが欲しい」「もう一人産みたい」の希望をかなえる。

展開する事業

- ・ 父子健康手帳交付事業
- ・ 小規模保育施設整備事業
- ・ なでしこ就職応援事業
- ・ 放課後児童クラブの充実
- ・ 多子世帯給食費助成事業

施策の基本的方向 2-2 出産・子育てしやすさを実感できる支援

施策⑥ 子育て支援・保育サービスの充実

- 全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境整備を図り、地域社会全体における子育て支援事業の充実を推進。
- 多子世帯家族にとって負担の大きい、保育料の無償化（3人目）や不妊治療及び不育症に係る助成を行うなど、経済的な負担軽減を図る。

展開する事業

- ・ 地域子育て支援事業
- ・ 一時預かり事業
- ・ ファミリー・サポート・センター事業
- ・ 子育て世代包括支援センター事業
- ・ 3人目の保育料等の無料化
- ・ 特定不妊・不育症治療費等助成事業

施策の基本的方向 2-3 苦小牧らしい教育プログラム形成支援

**施策⑦ 苦小牧の地域資源をいかした
体験学習・地域づくりの推進**

- 豊かな感性と人間性を持つ子どもを育成するための体験学習の機会と環境の整備を図る。
- 社会の変化・地域課題に対応する人材教育としての研修を実施し、郷土とまこまいの魅力ある地域づくりを推進し、地元自慢・愛する心を育む。

展開する事業

- ・ 豊かな自然環境や文化をいかした
体験プログラムの充実
- ・ アウトリーチ推進事業
- ・ 苦小牧アートフェスティバル事業
- ・ 市民・団体研修派遣事業

施策の基本的方向 2-4 ワーク・ライフ・バランスの促進

**施策⑧ 「ワーク・ライフ・バランス」を
重視した職場の整備**

- ワーク・ライフ・バランスへの取組促進に向けた各種啓発を実施し、企業の従業員の意欲、能力、創造性を引き出して生産性の向上を図るとともに、優秀な人材の確保・定着への土壌をつくりだす。
- 少子化の抑制、労働人口の確保など、社会全体の活性化を図る。
- 北海道で初めて「イクボス宣言」をした本市の取組を民間企業へと水平展開するため、民間との合同により研修を実施する。

展開する事業

- ・ ワーク・ライフ・バランス等企业表彰
- ・ 官民合同研修事業

基本目標と 施策の基本的方向

苫小牧出身者を本市に戻ってくる可能性のある層（移住のターゲット）として捉え、将来的なUターンにつなげます。また、定住人口と交流人口に加え、その中間に位置する関係人口を増やすとの観点から、スポーツの振興、合宿誘致などを通じて本市に興味を持ち、繰り返し足を運んでもらえる機会を設けます。
進学や就職期に本市を離れた方が「郷土とまこまい」に戻ってきたいと思わせる環境づくりを推進します。

施策の基本的方向 3-1 苫小牧出身者のネットワーク化支援

施策⑨ 苫小牧出身者への継続的な情報発信の拡充

- 苫小牧出身者は、将来的に結婚や子育てを機に本市にUターンする可能性があることから、本市が持つ様々な魅力を配信。
- 暮らしの情報や空き家情報、求人情報等をホームページやSNS（フェイスブック等）、本市出身者が集う場を活用して発信し、出身者が気軽に地元の情報に触れられる環境を整える。

展開する事業

- ・旬のとまこまい情報の発信事業
- ・同窓会組織への情報発信

施策の基本的方向 3-2 交流人口・定住人口の拡大支援

施策⑩ 移住者の受入れ体制の充実

- 移住希望者に対して、本市の生活環境や子育て環境などの情報や相談窓口の一元化を行い、効果的な情報発信と相談支援を行う。
- 空き家の情報の整理・発信や空き家への入居支援を行う。
- 本市への移住後の生活がイメージできるよう、移住希望者の要望に応じたオーダーメイド型の移住相談（市内案内）を実施。

展開する事業

- ・移住情報発信事業
- ・移住体験プログラム
～苫小牧オーダーメイド移住ガイド～

施策の基本的方向 3-2 交流人口・定住人口の拡大支援

施策⑪ ご当地イベントを活用した交流人口の創出

- 本市の貴重な自然や産業施設をいかしたイベントとして定着してきた「コスプレフェスタ」や、アニメ等のコンテンツを活用した新たな観光イメージをPR。



展開する事業

- ・とまこまいコスプレフェスタ
- ・とまこまいフィルムコミッション事業
- ・アニメツーリズム推進事業

施策⑫ 縁結びコーディネート機能の充実

- 苫小牧市内在住の男性又は女性と市外在住者（札幌市民など）とのマッチングを行う。
- とましん結婚相談所と連携したメンター機能を強化し、結婚希望者へ支援。



展開する事業

- ・とまこまい縁結びサポート助成事業
- ・届け出挙式

施策の基本的方向 3-3 “とまごころ
(地元自慢・愛する心)”の普及

施策⑬ 郷土の魅力を伝える活動の推進

- 子どもから高齢者までの全ての市民が、本市の地域資源の魅力を知り、郷土とまこまいへの理解を深めるとともに、地元自慢・愛する心（とまごころ）の醸成につなげる。



展開する事業

- ・ 苫小牧版図柄入りナンバープレート
- ・ とまチョップ水事業
- ・ 氷上スポーツ事業
- ・ 町内会スケートリンク経費助成事業
- ・ 国際少年アイスホッケー中学生交流事業

施策の基本的方向 3-4 関係人口の創出

**施策⑭ 苫小牧との継続的なつながりを持つ
きっかけづくりの推進**

- 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる者である「関係人口」に着目し、地域外からの交流の入り口を増やすことが必要。
- スポーツ合宿等を通じて、本市の「ファン」を増やし、地域の課題解決にも関わってもらえる地域外の人々とのネットワークを拡げる。



展開する事業

- ・ ふるさと納税事業（企業版ふるさと納税）
- ・ はちとまネットワーク推進事業
- ・ スポーツ合宿等補助事業
- ・ 全国高等学校選抜アイスホッケー大会

基本目標と 施策の基本的方向

戦略的な企業誘致の推進及び進出企業に対するフォローアップを進めます。多様な産業の集積を推進し、産業の高度化を目指すとともに、地域間連携による産業振興を進めます。また、国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致を図りつつ、豊かな自然環境との調和を図り、快適な都市環境を確保します。

施策の基本的方向 4-1 進出・立地企業への サポート機能の強化

施策⑮ 進出・立地企業への支援強化

- 立地企業が抱えている人手不足、人材確保等の課題やニーズに対して、継続的に意見交換・情報共有を図るとともに、課題解決に向けて連携・協力・支援を行う。
- 外国人労働者をはじめ、外国籍市民の受入体制の充実、地域との共生を図るため、相談窓口を設置。
- 緊急通報時や救急活動時の多言語通話サービスを導入。



展開する事業

- ・ 事業拡大・販路拡大支援事業
- ・ 人材確保支援事業
- ・ 職場環境改善事業
- ・ 外国人相談窓口設置
（多文化共生総合相談窓口設置事業）
- ・ 離職防止等処遇改善事業
- ・ 緊急通報・救急活動時の
多言語通話サービス導入

施策の基本的方向 4-2 多様な産業集積（高度化）の推進

施策⑯ 地理的優位性をいかした企業誘致の促進

- 新規立地及び企業の設備投資を呼び込むために、必要なインフラ整備を行う。
- 企業のニーズに応じた助成金制度により企業活動を支援し、多様な産業分野における企業進出を促進。



展開する事業

- ・ 新千歳空港の機能充実と国内・国際航空
輸送ネットワークの拠点形成
- ・ 企業立地振興条例助成金
- ・ 苫小牧港管理組合負担金

施策の基本的方向 4-3 地域間連携の促進

施策⑰ 広域連携事業の推進

- 東胆振定住自立圏における地域間の連携を促進し、本市が持つ都市機能と近隣自治体が持つ魅力や強み（豊かな自然・第一次産業等）を深掘りするとともに、その価値を内外に発信。
- 近年、多発する広域災害への備えを広域圏で進めるとともに、災害発生後の復旧・復興はもとより、経済活動の停滞（風評被害など）を回避するための取組を連携して実施。



展開する事業

- ・ 新千歳空港を核とした地域活性化の推進
- ・ 広域連携による地域ブランド推進
- ・ 防災体制の充実（防災備蓄品整備事業）

施策の基本的方向 4-4 充実した都市機能と
豊かな自然の共生施策⑱ 持続可能な都市機能及び
自然と共生した国際観光リゾートの形成

- 豊富かつ貴重な自然を観光資源とした、国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致により、投資を呼び込む機能を高める。
- Society5.0が掲げる新技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、持続可能な都市機能の整備。市民や来訪者がストレスなく目的地への移動が可能となる、ICTを活用した交通サービス導入を検討。
- 広域災害から安全・安心を確保するため、市民への情報発信を強化。



展開する事業

- ・ 苫小牧版M a a S構築事業
- ・ 防災行政無線整備事業
- ・ 国際観光リゾートの形成
- ・ ごみ分別アプリ事業

令和2年度の取組状況について

1. 令和2年度の進捗状況

- ・既に取組を行っている新たな事業
 - 苦小牧イノベーション活性化事業【基本目標1-4】
 - 特定不妊・不育症治療費等助成事業【基本目標2-2】
 - 苦小牧版図柄入りナンバープレート【基本目標3-3】
 - ごみ分別アプリ事業【基本目標4-4】

2. 合計特殊出生率について

- ・令和2年7月下旬に厚生労働省から、平成24年～平成29年の合計特殊出生率が公表となった。
- ・当該数値は、基本目標2の数値目標であり重要な指標となっている。
- ・令和4年度に予定している中間見直しの際には、人口ビジョン等に当該数値を反映する。



3. 新型コロナウイルス感染症の影響について

- ・令和2年初頭から国内外において感染が拡大し、現在に至る。
 - ・本市においても、北海道の休業要請・協力依頼に応じて、飲食店や施設が休業したほか、学校の臨時休業、公共施設の閉鎖などが行われた。
 - ・第2期総合戦略の策定時には想定していなかった事象であり、総合戦略や各施策にも影響があると考えている。
- ※第1期総合戦略への、影響は見受けられなかった。